

カルメル 霊性センターニュース



台風翌日の宇治カルメル修道院

2018年10月

346号

目次

目次	1
心の泉	3
カルメル会の企画案内	27
東京	28
名古屋	31
京都	32
北陸	35
諸所の企画案内	37
郵送お申込みのご案内	50
編集後記	51



心の泉



台風による倒木を免れた聖ヨゼフ像



第三卷

第十四章 善行におごらないために、隠れた神の裁きを考える

1 子

《主よ、あなたは私に対して、雷鳴のような裁きのお声をお聞かせになりました。そのとき私の骨はふるえ、私の靈魂はおののきました。天さえも、あなたのみ前にあっては清くはないと思ひ至る時、私は戦慄します。「あなたが天使たちにも悪を見いだし」(ヨブ4・18)、その罪をおゆるしにならないのなら、私は一体どうなるのでしょうか? 「星が天から落ちた」(黙示録6・13)のに、塵の私が何を自負するのでしょうか? 称賛に値する業をおこなった人が^{ならず}奈落の底に墮ち、「天使のパンを食べていた者」(詩編78・25)が、「豚のえさで満足している」(ルカ15・16)のを私は見ました。

2 神なしに徳はあり得ない

主よ、もしもあなたが手を引かれると、私には何の徳もありません。あなたが支配をやめられると、人のいかなる知恵も役には立ちません。あなたがみ手で支えてくださらないなら、人は何の力ももっていません。あなたが保証して下さらないなら、純潔な人も安全ではありません。あなたの聖なる見張りがなければ、私たちの警戒は役に立ちません。あなたに見捨てられれば、私たちは沈んで滅びます。あなたが私たちを見守ってくだされば、直ちに生命を取り戻します。私たちは変わりやすい者ですが、あなたによって固められます。すぐ冷淡になる者ですが、あなたによって熱を送られるのです。

3 私一人では何もない

ああ、私は自分がどれほど見下し、みじめに思わなければならないことでしょう! たとえ、何かよいものをもっている、それをどれほど無視しなければならないことでしょう! ああ主よ、私はどれほど深く、あなたのはかり知れない裁きに服従しなければならないことでしょう? その裁きの前に、私は自分が無以外の何者でもないことを悟ります! 限りないお方よ、果てしない海よ、そこにおいて私は、すべてが無であり、私というものを何一つとして見いだせません。それなら、誇りと自負心がどこに隠れましょう? すべての空しい自負心は、私に対するあなたの裁きの深さに、のみ込まれてしまいます。

18—10月 祈り

聖テレサのまなざし



主よ、あなたのために
わたしは生まれました

わたしたちの靈魂は
透明な水晶でできている城のようです
この城に入る門は 祈り です

この美しい城には いのちの泉 があり
そこに植えられた木は いのちの木 となります *
～神との親しさを求める人々の母聖テレサ～

わたしたちの毎日には様々な出来事、困難があります。一つひとつを丁寧に、人間の尊厳を保って生きていくのはやさしいことではありません。すべては過ぎ去っていきます。その時間の流れの中で変わることなく、常に存在するのは神だけです。その方、神をわたしたちは探し求めます・・・ その方は水晶の城の中央で「あなたのうちにわたしを捜しなさい」とわたしを待っておられます。

恐れることはなにもありません、 **

「わたしが捜しているその方を わたしは自分のうちに見つけました。」(聖テレサ)



スペインのアビラ市では 2017 年 10 月 15 日から今年の聖テレサの祝日までを聖テレサ生誕 500 年祭として祝っています。その最後の日々を聖テレサのまなざしのもとに神と親しく過ごしていきたいとおもいます。

伊従 信子 (いより のぶこ)
ノートルダム・ド・ヴィ

* 聖テレサの著作；『イエズスの聖テレジア自叙伝』『靈魂の城』『完徳の道』

** 「聖テレサ絵葉書にそえて」より

創造主への賛美（13）

くのり 彰

東日本大震災で「絆」という言葉が流行語となった。だが、宗教的な自然観、世界観では、人間同士だけではなく、人間とすべてのもの、動物、植物、無機物に至るまでが、一つの絆、キリスト教的には神によって、結ばれているのである。曾長シアトルは言う。

大気は赤い人にとって貴いものである。なぜなら、すべてのものは、ひとつの息を呼吸しているのだから。———獣、木、人、みんな同じ息を分け合っている。……………

私は、大草原に一千頭ものバッファローの腐った死体がころがったままにされているのを見たことがある。白い人が鉄の馬（汽車のこと）で通り過ぎながら、銃で撃ったのだ。私は「野蛮人」で、鈍いから、我々がただ生きるためだけに殺すバッファローより煙を吐く鉄の馬の方がなぜ大切なのか、わからない。

獣がいなければ、人とはいったい何なのか？ もし、獣たちがまったくいなくなってしまうたら、人は、その魂のあまりの寂しさに、死んでしまうだろう。なぜなら、獣に起こることは、ほどなく人にも起きるのだから。あらゆるものは互いにつながりあっているのだ。

ここには、すべてのものが家族のようにつながっているという考えがある。無機物、植物、動物、人間の存在領域を4つの同心円で描くとすれば、外側が一番大きな無機物の円、次に植物、動物、一番内側に人間の小さな円となり、同心円の中心は、神ということになる。

我々は知っている、大地は人のものではない、人は大地あつての存在であると。我々は知っている、すべてのものは、ひとつの家系をつなぐ血のようにつながっている、と。すべてのものはつながりあっている。大地に起きることはなんであれ、大地の子らにも起きる。

人が生命の織物を織るのではない。人は、その織物のひとすじの糸にすぎない。生命の織物に対して人がすることは、それがなんであれ、自分自身にすることなのである*。

*曾長シアトルの演説は1854年になされた。1970年の「地球の日」に、これが読み上げられ、深い感銘を受けたテッド・ペリー教授が、「曾長シアトルのメッセージ」として脚色した。しかし、その核となる言葉は曾長自身のものである。

（続く）

十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (128)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

「十字架の聖ヨハネの本質的で深遠な解説」(5)

エコロジカルな事柄について書くには、彼は控えめです。しかしすぐに、神学者の言葉で語り続け、創造は神の手に留保された独占権であると述べます。「なぜなら、神は他の多くのものを他の者の手を借りて、たとえば、天使や人間の手によって行われるとしても、創造ということは、ご自分の御手以外の他の者の手によっては決して行われなかったし、行われぬからである」(『霊の賛歌』4・3)。

この聖書的神学的土台から、すぐに十字架のヨハネは、また彼と共に、『霊の賛歌』の恋慕う霊魂は、「観想の感覚と愛に従って」(CB6,1) より上のヴィジョンへと、脱け出してしまいます。より正確に言えば、彼は観想の愛から宇宙と対話し、言及した聖書の言葉や神学的というよりは対神徳的な読み方——これらによって存在するものの全体を判読していたのですが——を思い起しつつ、観想のまなざしを捨て去ることなく話を終えるのです。

次の歌 (CB5) における大胆な問いに対する答えを解説しようとする時、驚くべき最後の結末にたどりつくにせよ、人間的なものの内にはあまりエコロジカルな文献はありません。

受肉と贖いというキリスト教の信仰の神秘は、神の最大のみわざです。「それらの内に神はご自分をより一層明らかにされ、それらにより一層心を砕かれた」(CB5,3) のです。神のより小さなみわざは、神が通りすがりのように行われた被造物です。それらは、「神の足跡のようなもので、神の偉大さ、能力、知恵、その他の神的諸徳を反映している」(同) のです。

より小さいとはいえ、神のこのみわざは、無償の恵みに満ちたものです。神が創造を急がれたことは、不完全に行われたとか形が崩れたということを決して意味していません。



エディット・シュタインにおける女性の霊性（2）

ハビエル・サンチョ神父（OCD）

女性の召命の決定（確定）というようなことについて話す時、人権や個人の人格の権利が否定されるのではないかという疑いが生じます。それゆえ、次のように強調したいと思います。女性の召命は、三重であると。すなわち、人類という一般的な召命、各人の個人的な召命、女性の特別な召命です。（作品 88）

女性のこの三重の召命の内、今、私たちは、女性一般の霊性を確定し方向づける「特別な」召命だけに関心を向けたいと思います。

1. 女性の本来の召命

問題の本質におけるエディット・シュタインの主張は、現実の抽象的分析と同義語ではありません。彼女の出発点は、現実の状況や、なぜ女性は長い歴史にわたって男性の支配に服して来たのか、そして今もなおそうであるのかといった問い以外の何ものでもありません。この現象に関する解釈は、現実の状況は原罪の裏りであるという神学的現象学的なものです。

したがって、女性に関する彼女の人間論的研究は、人間の起源の瞬間から、すなわち人類の真の状態を反映している男と女の創造という瞬間から始まっています。女性の存在の単純な分析に終わることなく、男と女という二つの本来の本性を調べることに心を砕いています。ここから出発することによってのみ、人類における各々の地位や、二つの性の区別や相補性を理解することができるのです。このことは、男と女によって構成されている社会の客観的分析に十分時間を取ることなく、諸権利の単純な要求にあまりにも熱心であった、その時代のフェミニズム運動に対する大きな功績、刷新となるはずで、女性は、その人間論的かつ神学的存在の複合的な分析から出発する時にのみ、人類において真の地位を得ることができるでしょう。

どこに男や女の真の存在を見出すべきなのでしょう。それは、墮罪や原初の秩序の喪失の前の起源にあります。創世記には、人間論的思索を開始するための神学的箇所があります。つまり、初めに神は、「男と女」に創造されたのです。

エディット・シュタインは、創造の物語を分析する中で、男と女に共通する三重の召命を見出していきます。すべての人類に刻み込まれた召命やその中心性と重要性は、その実現が人間における神のみ旨の成就と一致していることに根ざしています。

男と女の違いは、この三重の召命の実現の独特の仕方によって生じています。男にとって被造物の支配と管理（世話）は第一義的召命であるのに対し、女にとっては、種の継続という召命が第一義的召命となるため、第二義的なものとなります。このことは同時に、それぞれの性に伴う身体的精神的特徴の理由と説明をもたらします。ある召命が第一義的であるという事実は、他の召命に対して知ら

んぷりとなることを意味していません。むしろ逆で、相補性が、それぞれの使命が良く機能するために求められているという事実を示しています。

他方、エディット・シュタインは、男であろうと女であろうと、すべての人間に見出される三重の召命を強調しています。すなわち、人類の特性、性の特徴（男か女）、固有の個性です。すべての個人は、完成（完徳）に達するため、これらの（三つの）召命のそれぞれを、その存在の統一性を達成するために調和的に発展させねばなりません。

女性の召命に直接的に注意を向けるならば、女性の本性（自然性）を決定（確定）しようとする意図の中に、エディット・シュタインが、このテーマに光を与え、結果を確証することになる人間諸科学を利用しようとしているのが分かります。しかし、結論や決定的要因は、男と女という原初の存在が反映されている聖書との接触の中に現れています。彼女が好む重要な情報は、創造の物語です（作品 119 以下参照）。

エディット・シュタインによれば、女が男と共に受け取った本来の召命は、創世記から取られた次の言葉に反映されています。「すでに人間創造に関する最初の物語の中で、男と女の相違が語られている。次に三重の使命、すなわち、神の像であること、子孫を産むこと、地を支配することが彼らにゆだねられます」（同上 121）。これらが「召命の」三つの要素です。ここから直ちに、神の像を活性化すること、自然の合理的開発、出産（生殖）が導き出されます。

「像である」という召命は、たしかにその行動様式は属としての性や人の個性によって異なったものとなるでしょうが、全人類にとって根本的なものです。女性の特有の性格をより近くから眺める場合は、まさに、本来の召命の他の二つの側面を実行しなければならぬという存在様式の中にあるのです。「地を支配する」という使命は、女性にとっては第一義的なものではなく、この使命の前での彼女の態度（行動）は、この仕事において男性を助ける「伴侶」「妻」として特殊化されているのです¹。

女性に特有な事柄に関するこの最初の規定から、女性性を定義するいくつかの固有の特徴が引き出されます。すなわち、「他の男性の人生に参加することができるということは、大なり小なり、彼に影響を及ぼすすべてのことに参加することができるということである」（ESW V, 3-4）。一言で言えば、その男性の人生に関わるすべてのことにおいて協働するよう呼ばれているということである。「その男性に同伴すること、彼の脇を歩くこと、愛をもって、彼の人生に参加すること、誠実に奉仕する準備ができていて… それは、他者やその必要性への感情移入（エンパティア）の能力を持つことであり、適応への能力や素直さを伴っている」（作品 92）。この参加は、女性においては「従順と奉仕」（同）への素質を意味しています。徳は、その本来の存在への適応として、また受け取った「像」を自らの内に発展させる意志として理解されます。

¹ Cfr. ESW V,19-20 y ESW XII,116.

年間第27主日 (マルコ10:2-16)

イエスは結婚の尊厳について教えた後、子供を軽んじる弟子たちを叱り、子供を抱き上げて祝福されました。一見、別の話のように見えるこの二つの出来事は、結婚と家庭生活の大切さをトータルな視点で教えてくれていると思います。結婚を大切にすることは子供を大切にすることであり、子供を大切にすることは神の国を受け入れるという神秘を。

夫婦が一つに結ばれるという人間の基本的ないとなみは、実は大変豊かな神の国への招きなのだと思います。男女が愛し合い一つになることは、大変幸せを感じる瞬間です。第一朗読の創世記でもその喜びが生き生きと表現されています。「ついに、これこそ、わたしの骨の骨、わたしの肉の肉」。男は父母を離れ女と結ばれ、二人は一体となることで、心も体も恵みで満たされるのです(創世記2・23-24)。

さらに、その恵みは、子供の出産という恵みがもたらされ得ます。心も体も一体となった夫婦の結晶のように、両者の遺伝子を受け継ぎ、両親に似た子供がこの世に生を受けるのです。一人の子供の中に夫婦の血が流れ、それはもはや別々に分けることはできません。子供の存在は、両親が一体であることの何よりもものしるしなのです。もちろん、子供を授からなくとも、夫婦が一体であることは、両者の心に刻まれた深い出会いの記憶がそれを証明しています。

イエスは、これほどまでの神の祝福を粗末にはしてはいけない、と教えているのです。「神が結び合わせてくださったものを、人は離してはならない」と。

もし、この夫婦の絆を軽んじる時、子供を傷付けることにもなります。それは弟子たちが子供を軽んじたことにも通じるものでしょう。それでは神の国を受け入れることにはならないのです。

結婚と家庭の生活は私たちのごく身近な日常ですが、そこに実は偉大な神秘があり、神の国に至るヒントが隠されているのです。二人の出会いは家庭を作り、家庭は愛の学び舎として、人を神の似姿へと成長させる環境となり得ます。「神は愛」ですから、愛し合い、信頼し合い、支え合う家庭の中に神は現存されるのです。神の国はごく身近な家庭の中にあることを多くの家族が証できますように。

(今泉健神父)

年間第28 主日 (B) (マルコ10:17-30)

今日の福音はキリストの特別の善良さ素晴らしさに気付いた金持ちの青年とキリストとの問答が核心となっています。イエスに自分にはない何か、とても大切に大事なものを感じた金持ちの青年はイエスの前にひざまずきます。この青年の心を捕えたのは何だったのでしょうか？それはイエスの無条件の愛です。イエスがわたしたち一人ひとりにこの無条件の愛を持って生きることをどんなに望んでおられることか、そのためにもっともっとイエスに信頼をよせ、その導きと恵みを願わなければなりません。

真の大切なことに心を留める。物質的な利益にこだわって生きることはこの世の常です。この金持ちの青年も同様です。イエスの言葉を聞いて顔を曇らせたのはこの世の富を重視していたからです。日常的に経済的に生きようとする生活の損得はその場で実感できるものです。しかし神がお与えになる真の利益、報いは後から来るものです。この世はお金を払わずに得られる即席の満足を探しています。少しでも安く！と物の値段に夢中になるよりも、神が約束してくださった真の宝に心を集中させるべきです。物の値段はとるに足りないことであり、神が与えてくださる報いは永遠に続くものです。神である主イエスに信頼しその助けと恵みを願うならば、出来ないことも可能にしてください。主よ、どうぞ日々辛抱強く天に永遠不滅の宝を積んでいくことができますように！

ペトロの質問。“私たちは何もかも捨ててあなたに従って参りました。今、わたしたちに何を報いてくださるのですか？”と言っているかのように思えるペトロの質問です。これは自分中心の思いから出たものではなく、金持ちが神の国に入ることはとても難しいと言われたイエスの断言に対しての答えというべきものです。ペトロは、全てを捨ててキリストに従った者が神の国に入るために、どんなチャンスを与えていただけるのかを知りたかったのです。物欲に捕らわれない心が神の国に入るための必須条件なのですが、この質問にたいしてイエスは具体的には何も答えておられません。ただはっきり言われました。この世で自分の全てを捨てた者は、来世において報いとして永遠のいのちを得るばかりでなく、この世でも有り余るほどの豊かな報いを受ける、と。

真の意向。神からの報いはただ単に物に執着しない者に与えられるのではなく、キリストへの愛のために、その福音に従って自分を捨てようとする者に与えられるもので、真の意向のない犠牲は無意味です。真の自己放棄はキリストに光栄を帰し福音の証しとなります。

永遠の生命。真の自己放棄の報いはこの世で始まり、来世でその頂点に達します。この世では様々の苦悩がありますがこの苦悩の試練を引き受けることによって、キリストへの愛、その意向は清められ、真の愛の証しとなっていきます。この愛の報いこそキリストとともに終わりなく喜びのうちに生きる永遠の生命です。

(Sr. Paulina)

年間第29主日 (マルコ10:35-45)

今日のみことばは、イエスが三度、ご自分の死と復活を予告した後での出来事です。ヤコブとヨハネは、イエスに自分たちの願いをかなえて下さる様に願います。自分たち兄弟がイエスに従う弟子たちの中で、一番になることを心より望んでいたのでしょう。

栄光をお受けになるとき…1人は右に、1人は左に…という願いに対して、イエスは「自分が何を願っているか、分かっていない」と言われますが、イエスが「受ける洗礼を受けることができるかとの問いに対し、彼らは「できます」との決意を述べています。

そして「確かに、あなたがたはわたしが飲む杯を飲み、わたしが受ける洗礼を受けることになる。」と言われます。弟子たちもイエスの受難に与ることになりますが、栄光に上げられるイエスの左右に誰が座るのか、誰がその位に上げられるかはイエスご自身が決められるのではないと言われます。

そして2人に対して、腹を立て始める他の十人の姿が出てきますので、弟子たちは、イエスに従い受難に与る決意もあるのですが、むしろその後の上下関係を気にする、大切にする、そんな人間的考えの中にあることが解ります。

そこでイエスは、十二人が正しい考えを理解する様にと、わかりやすい例を挙げて、十二人に教えられました。偉くなりたい者は、皆に仕える者になる様に…と。そして、いちばんになりたい者は、すべての人の僕になりなさい…と。

神の独り子イエスは、私たちの救いのため、私たちの罪を贖うため人となりました。仕えるために来られ、ご自分の命を捧げて下さいました。それがゆえに、洗礼を受けて神の子となっている私たちがあるわけです。

振り返ると日々の生活の中で、人間的な考えの中に留まってしまっていることが多い私たちなのではないでしょうか。イエスの姿を想い、眺め、そして倣い、イエスの様に父なる神と人々に仕えてゆくことができます様に。

(Fr. 古川利雅)

年間第30主日（B）（マルコ 10：46－52）

「主は自身を助ける者を助ける」という諺があります。バルティマイは気骨があります。物乞いをして人々をうるさがらせるのはよくないと知っています。しかし、イエス様が近くを通り過ぎるとき、彼は「お客」に諫められても黙るのを拒みます。イエス様が自分の運命を変えてくださるとの確信に従って行動します。それで、キリストに会おうとするバルティマイのゴールをだれも妨げられません。私たちが主に近づくのは私にとって必要なことであり、イエス様だけが私の傷を癒し、天国への正しい道に留まらせてくださるのだという同じような確信を私は持っているのでしょうか？ 何もイエス様から私を分かちつものはないと確信しているのでしょうか？

「イエス様、私を助けてください！」このことばは私たちが主の憐れみの心に目を向けるのを励まします。「困難や、問題、誘惑のとき、そのようなことがどこから来るのかというような理論的な反省に携わっているべきではなく、主を呼び求め、主との生きた触れ合いを保ち、積極的に行動すべきです。それ以上に私たちは、『イエス様、私を助けてください』とイエス様の名を叫ばなければなりません。イエス様は、ご自分を求める者の近くにおられ、私たちの声を聞いていることを確信できます。悲観しないで熱意をもって走りましょう、・・・私たちも生命、主であるイエス様に到着するでしょう。」

信仰の恵み。盲人で物乞いのこの人の信仰は、キリストにこの人を癒させるものでした。信仰は私たちが意志や努力で得られるものではありません。私たちは皆洗礼によってこの恵みを受け取っているのです、しかし、これは育てる必要のある恵みです。「主よ、私の信仰を増してください。」

私たちの愛する主に絶えず感謝することは大きな叫びです。主がバルティマイに目をとめられたように、私たちにたくさんの恵みや好意をくださっています。カトリックの信仰と希望という驚くべき恵みや、無限の愛と赦しなどです。忍耐して祈り、私たちが最も必要とするこれらの徳、特にキリストが私たちの日々の生活の中で働いていてくださっているのを知る信仰の恵みに信頼しなければなりません。

(Sr. Paulina)

いのちの言葉 10月

しかし、**霊に導かれているなら、
あなたがたは、律法のもとにはいません。**

(ガラテヤの信徒への手紙 5・18)

使徒パウロはガラテヤ(今日のトルコ中心地にあった町)の信徒たちに手紙を書いています。彼らに福音を告げ知らせたパウロは、彼らのことを深く心にかけていました。

ガラテヤの共同体の幾人かは、キリスト者が救われるためには、モーゼの律法すべてを厳密に守る必要があると考えていました。

これに反してパウロは、「神の」であるイエスご自身が、すでにその死と復活を通して全人類を救われたので、もはや誰も「律法のもとにはいません」と語ります。それどころか、すべての人にとってイエスは、御父に至るための「道」になられたと、はっきり記しています。

イエスへの信仰によって、私たちは自らの内に「神の霊そのもの」である聖霊をお迎えすることができること、また、この霊は私たちの人生の同伴者となり、生涯にわたって私たちを導いて下さる方となるとも書いています。

パウロによれば、律法を守るべきかどうかを論ずること自体がすでに無意味であり、むしろ神が私たちに聖霊を与えて下さった真の理由を、聖霊に悟らせてもらえるようお願いなさいというのです。

パウロは別の箇所でも、律法全体は「隣人を自分のように愛しなさい」という一句によって全うされると記しています。

つまり、私たちキリスト者は、神に対する愛と隣人に対する愛を生きることによって初めて、真の自由を得ることができ、神の子供となれるのです。神の子供であるとは、すべての人を愛すること、自分から先に愛すること、自分と同じように他の人を愛すること、さらに、イエスに倣い敵をも愛する、これらの責任も伴います。

しかし、**霊に導かれているなら、あなたがたは、律法のもとにはいません。**

神からの愛によって私たちは、家庭や職場、あらゆる場に平和な関係を築いていくよう、責任ある行動を求められています。

教師として働くマリアの体験です。

「私はパリ近郊の学校で教えていますが、そこは多文化の人々が共存する比較的貧しい地域です。

生徒たちはあまり勉強に身を入れず、その成果も見えない中で教えることは簡単ではありません。時々くじけそうになります。それでも、精一杯生徒たちを信じ、信頼しながら、彼らと共に歩もうと決心しました。

クラスに一人、一切グループ活動に加わらず、孤立して混乱を招く生徒がいました。ある日、その子と二人で話すことができました。

私はその子に「担任として私にはもちろん責任があるけれど、私だけではなくあなたにも、自分のクラスに対して責任があるのよ」と、落ち着いて静かに話すことが出来ました。彼は何も言わずに私の話を聴いていました。

数日後、彼から手紙をもらいました。そこにはこう書かれていました。「僕のこれまでの態度、本当にすみませんでした。もうしません。先生が求めるのは言葉ではなく、具体的な行動ですよ。先生はいつも僕たちに正しい価値観を教えてくださいました。これから僕もそうできるように頑張ります」(*1)と。

しかし、霊に導かれているなら、あなたがたは、律法のもとにはいません。

いつも愛のうちに生きるためには、私たちの努力だけでは足りません。私たちが頂いた聖霊の力がが必要です。聖霊が私たちと共にいて、その力で支えて下さるよう祈り願いましょう。

キアラは語っています。「置かれた状況の中で、自分は何をなすべきか、何を選ぶべきか。それを悟らせ、私たちを動かすのは『愛』です。『これは善いことだからやってみよう。これは悪いことだから、止めよう』と教えてくれるのは『愛』です。

相手の善のためにこうしなさいと、私たちを促すのも『愛』です。

こうすることで私たちは、外からではなく、聖霊が心に注いで下さった『新しい生き方』に導かれるようになります。

愛によって一つになった私たちの力、心や思い、才能が、個人や社会の上にある神のご計画のために差し出されるなら、私たちも真に「聖霊に従って歩む」ことができるでしょう。

愛は、私たちを自由にしてくれるからです」(*2)と。

レティツィア・マグリ

*1パリ近郊の教師-マリア A.の体験-「現代人への招き」加行動「ソル」2018年3月3日

(www.focolare.org 参照)

*2キアラ・ルービック、あの“内なる声” チッタノーバ誌 50(2006/10).p.9

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

いのちの言葉の集い

関東 10月14日(日) 13:30~ 神奈川 カトリック藤沢教会 204号室

(週日に、調布、鷺沼、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも)

中部 10月13日(土) 14:00~ カトリック緑ヶ丘教会(名古屋市緑区)

10月14日(日) 14:00~ 瀬戸市みずの坂 サポートハウスゆうや

長崎 10月28日(日) 11:00~ カトリック浦上教会 要理教室

連絡先:フォコラーレ東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail:tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: conil157ch1.wix.com/focolare-jp

長生きしていると、宿病というのかいわゆる持病と呼ぶものがひとつやふたつはあることなのですが、私もそのようなものをいくつか持っていて、その中のひとつに眼に現れる不可思議な現象があります。

実にもう数十年來のものであり、今もなおあまりにも頻繁に現れるので、あゝまたかとそれほどの気にもならず、もはや身の内の一部のような存在です。

どのようなものかという、先ず注視点が抜け落ちて小さな空白ができ、やがて周囲から割れた鏡の破片のごときものが、水に濡れてギラギラと稲妻のように光り動くのです。そしてそれは次第に大きくなって目の中全体に広がります。発症はいつも左か右かいずれかの片方であり、そのさ中であっても目は普通に見えています。目を閉じてもギラギラは消えません。

不思議に20分ほどですべて消えて軽い頭痛を伴うというパターンです。

当初の病院では片頭痛なのだとわれ、症状としてはそれほど珍しいものではないようで、緊急を要するものでもないようでした。

日頃は時々眼科へ行ってまた出ましたと訴えたりしていましたが、連日4日とか、日に2回とか現われた時、特に何も出ないと思うけれどこれは脳の中のことだから念のために行きますかと脳神経外科を紹介されました。

紹介されたK医師は私より年長のご老体であり、診察中に居眠りするなどと噂されることもあったりですが、おおらかな温かいお人柄と見受けました。

K医師のもとで1年か2年に1回、MRI検査を受けているのですが、先だつての受診の時のことです。画像を見ながらいつものように大きな声で梗塞があるけどまあ年齢並みだなと言いながら、不意に「芥川と同じなんだね」と机の上に置いてあった岩波文庫を私の目の前に差し出しました。

昔のものと思しき岩波文庫で、芥川龍之介の「歯車」でした。「？」・・・怪訝顔の私にK医師は愉快そうに、症状が同じなんだねと言って「それからねこの海馬 見たものを脳のスクリーンに映すの これもきつと似てる 芥川と」「？」・・・。

「歯車」は若いころ読んでとても好きでしたけど・・・「また読んでみます」

私は変に落ち着かないような妙な心持で答えて椅子を立ちました。診察室を出るとき、K医師の笑顔いっぱいのもう一声がかかりました。「自殺はしないで それだけは似ちゃだめだよ」。

何年ぶりになるのでしょうか。私は久方ぶりに芥川に触れました。

芥川龍之介集を本棚から取り出して「歯車」を読みました。

遠い昔、中学生か高校生の頃の読み進む中で感じたあの胸に迫りくるもの、そして読後に感じ入った想いの深さなどなどが意外な鮮やかさで甦り、ただの懐かしさだけではない身に馴染む苦悩ともいうべき感慨を強く感じました。

知性で組み立てて神経で書くと評される芥川作品の中でも、私は遺作の一つである「歯車」は格別に好きだったのですが、この「歯車」がこの眼のギラギラの症状のこととは思ってもよらなかったことで、今回はほんとうにほんとうに驚きつつ新しい世界を身に受け味わったのでした。

作中に「歯車」の描写は三度ありました。

絶えずまわっている半透明の歯車 歯車は次第に数を殖やし 半ば僕の視野を塞いでしまうが それも長いことではない 暫く後には消え失せる代わりに今度は頭痛を感じはじめる 頭痛のはじまることを恐れヴェロナアルを嚙む 半透明の歯車も数を殖やすにつれだんだん急にまわりはじめた 視野を遮りだした

確かに私のももの歯車に見えないことはないというよりも、歯車と言った方が言い得ているかと、それにその方が何とも文学的ではないかと痛感します。作品の雰囲気に沿い核のように現れ、魂の不安、苦しみを象徴し、それは死へと傾いてゆく・・・芥川のギラギラは身体の症状ではなく魂の次元であり、限らない文学であるのです。新しい感動をもたらすのです。

「将来に対するぼんやりした不安」のただなかで、枕もとに聖書を置いて服薬自死した芥川龍之介は、時に 36 歳。 医師に芥川と同じ症状と言われた持病を 30 年近くも抱えて、深い敬愛の念をもって作品を読み返す私は 80 歳を越えた老人です。

片頭痛の症状とか脳のスクリーンが似ているとして、そして自殺は似せんとしながら、しかし最も似ている、同じだと言いたいのは聖書なのだと、K 医師に伝えたいと思ったことでした。

今後、あの割れた鏡のギラギラ稲妻が出現するたびに、私は深い親近感を抱き芥川を想うでしょう。 それから次の受診の時、K 医師に「歯車」のことを話し、ありがとうを伝えることでしょう。

(上野毛教会信徒)

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>
の記事を紹介します。

<< **Communications** (時事通信) >>

2018年9月1日

インド、ケララ州の大洪水



この8月にインドのケララ州を襲った災害は、幾週間も続いた豪雨のためで、その結果、山岳地帯の地滑りと貯水池の満水により大洪水が引き起こされました。この期間、豪雨はケララ州全土に及び、すべての貯水池は縁まで満水となりました。そのためダムはやむなく水門を開くことになり、また豪雨も絶え間なく降り続いたため、河川は水量を抱えきれず、1. 5キロ先の川の間地点まで大量の水が溢れ出しました。

これらの河川の堤防沿いに住む何十万人もの人々が、今までの人生で見たこともない大洪水を目のあたりにしました。降り続く中で瞬く間に、すべての家屋は豪雨と大洪水に飲み込まれていきました。何百人もの人々が亡くなり、何千人もの人々がホームレスとなり、救援キャンプに避難しています。今もなお、多くの人々が水の中や家に取り残されたままで、その大変な状況は把握しきれていません。

ケララのカルメル会の神父、修道女、修道者たちは、どうなったのでしょうか。ケララの多くの修道院は、洪水の起こったペリヤール川の堤防の上にあります。カラディ (マラバル管区) のカルメル山修練院では、皆が2階に避難し、3日間停電の下で僅かな食糧で過ごしました。避難してきた二三の家族を受け入れ、全員無事です。洪水はおさまりましたが、大きな被害は周辺全体に及んでいます。

聖心哲学院（アルワエ、アトマダルシャン）と霊性センター（マンジュメル管区）では、両方の建物が水につかり、哲学生たちは避難して、マンジュメルに移りましたが、資産の被害は莫大です。ヨサーブハバン、カラマセリイ（マンジュメル）も水浸しましたが、メンバーは全員無事です。しかし資産の被害は大きいです。アナマンダのヨセフ修練院（マンジュメル）では、建物全体が水没、修練者は避難しました。ヴァラポリ修道院（マンジュメル）では、建物全体が水没し、アイルアの南ケララ管区の神学院では、洪水は1階まで届き、司祭たちと神学生が幾日も建物に閉じ込められました。困難のさ中で、彼らは近隣の人々を助け、食料を与え、修道院に泊まらせました。他の多くの修道院も、大洪水の犠牲者のために自分たちの場所を開放し、宿泊させ、援助しました。

南ケララ管区の管区長、司祭、修道者たちは、ケララの大洪水の異なる地域の被災者の救済活動も続けています。マラヤトゥールのカルメルでは、姉妹たちも被害を受け、修道院も浸水しました。これらの修道院は被害を受けやすい堤防の上に建っていたので、洪水の被害を直接受けることになりました。修道者たちはどうにかして生き延び、近隣の多くの家族を救うことができました。

洪水はおさまりましたが、本当の困難は今から始まります。建物のほとんどすべてが最悪の状況にあります。被害総額を出すのは簡単ではありません。私は、各地の状況を具体的に把握していませんが、私たちの修道院が被災し、司祭や修道士たちも困難な状況にあることは確かです。私たちの兄弟たちがマンジュメルや他の場所で、何千もの被災者たちのために緊急避難センターを開設したと聞いています。また、サルバラ、ラニ、アラブザでは被害にあった司祭や修道士たちが洪水の中に閉じ込められていると聞いています。以上、現状のフラッシュニュースをお伝えしました。追って詳細を皆さんにお伝えし、どのように被災地の私たちの兄弟姉妹を助けることができるかお知らせ致します。



糸巻き棒からペンへ(35)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

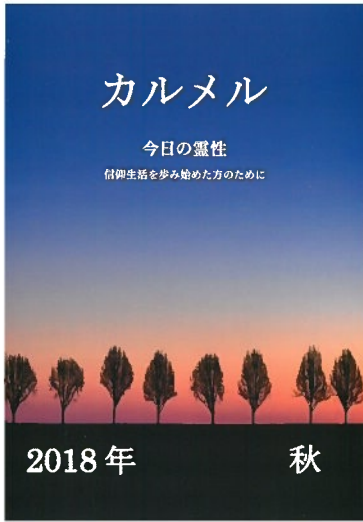
エドゥアルド・サンス OCD

少なくともこの時から（それ以前の記録はありません）、詩や歌（コプラやヴィヤンシーコやカントルシッジョ*）が、聖女にとって、自分の感情を表現するための重要な手段となります。いくつかの詩は、それ以前と同じ由来を持ったものですが、他の詩は、修道女の共同休憩の時に歌ったり、踊ったりするために、当時の音楽に合わせて作られました。さらにいくつかの詩は、何人かの独唱者によって歌隊と交互に歌われるために、対話する形式を取っています。詩を手紙の中で取り上げ、それを友人へ贈り物のように送り、他人が作った詩を解説し、やりとりしています。「これらが私の作ったヴィヤンシーコでないなら、どうして送るのか分かりません。…かわいらしい歌詞になっています」（Cta.163,23）。「詩の作品も訪れます」（Cta.395,18）等々。それ以来、カルメル会では、修道院の祝日に敬虔な作品を作ったり、演奏したりするのが習慣となりました。

1560年に初めて心が刺し貫かれる体験（transverberación）をした時、天使が火の矢を心臓に突き刺し、愛に焼かれたまま、はらわたが引き出されてしまうかのように思われるほど、神の愛が激しく燃え上がるのを感じました。「私の靈魂はあまりにも強い神の愛に燃え、私はそれをだれに帰すべきか知りませんでした。…私は神を見たい望みに死ぬほどの思いでした」（『自叙伝』29,8）。しばしば、このエピソードは美術に、特にローマの勝利の聖母教会にあるベルニーニの有名な彫刻によって表現されてきたにもかかわらず、聖女自身は、現実の天使のことではないこと、矢とか火も現実のものではなく、感覚的なイメージであり、それによって言葉で表現できない出来事を語っているのだと説明しています。「それは、心臓に矢が突き刺さるかのように靈魂には思われる一種の傷です。こうして悲嘆にくれるほどの大きな苦痛を引き起こしますが、それは、決してなくなることを望まないほど快い苦痛なのです。この苦痛は、感覚的なものでも、肉体の傷でもなく、靈魂の内奥に起こるものです」（『靈的報告』54,14）。

*歌の種類。コプラは8音節4行の韻文詩。ヴィヤンシーコはクリスマスの歌や15-16世紀のカスティッヤ地方のリフレインを伴った短い叙情詩。カントルシッジョは短い小詩。

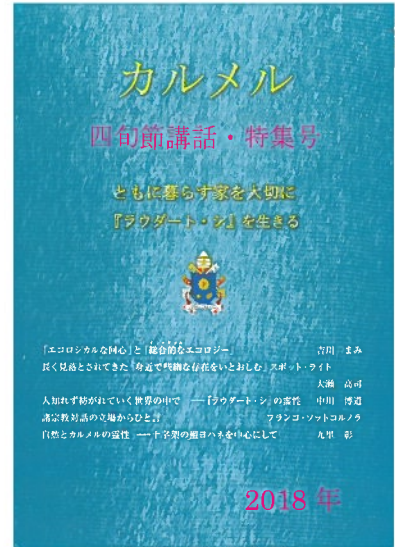
（続く）



2018年 秋号 No.370

《靈的生活への招き》

- 沈黙の祈り(念祷) 松田浩一
 信仰生活(再)入門 テレーズと共に歩む
 幼子の道(3)―小鳥の祈り(1) 片山はるひ
 カルメル会の会則に見る
 アシェシスと修道生活(3) 九里 彰
 現代に響くルルドの靈性(II)
 ―聖ベルナデッタとカルメル会とのつながり
 須沢かおり
 人の生き様と結びついた祈り(2)
 ―祈りは、宗教の塊です
 森 一弘
 風に吹かれて(17)―新しい自分を求めて
 原 造
 キリストに伴われて季節を巡る(3) 伊従信子
 祈りを教えてください(3)
 ―マルコ福音書による「目覚め」としての祈り
 田畑邦治
 「だれか熱い紅茶を入れてくれないかしら」森 みさ
 靈性研究会議義録(2)―秘跡について
 奥村一朗



2018年 特集号

- 「ともに暮らす家を大切に」
 ―『ラウダート・シ』を生きる―
 「エコロジカルな回心」と「総合的なエコロジー」
 吉川まみ
 長く見落とされてきた
 「身近で些細な存在をいとおしむ」スポット・ライト
 大瀬高司
 人知れず紡がれていく世界の中で
 ―『ラウダート・シ』の靈性
 中川博道
 諸宗教対話の立場からひと言
 フランコ・ソットコルノラ
 自然とカルメルの靈性
 ―十字架の聖ヨハネを中心にして
 九里 彰

ご案内

1冊 520円 A5サイズ 50～70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会
 信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、700円【520円(＋送料180円)】程度の献金を下記
 へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬
 ＋特集号 計 3,500円)を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会
 お問い合わせは事務担当 竹田まで TEL(03)5706-8356



書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

——— 目次 ———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禪
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ



福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて
十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】 **287**

**第2版
好評発売中!**

聖母文庫

マリー=ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)



神と親しく生きる
いのりの道

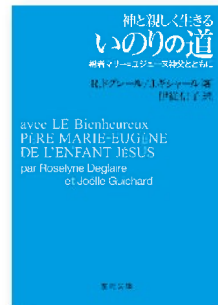
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドブレール/J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】 **246**

定価**540**円(税込) 209頁



わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】 **268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340

最新刊のご案内

修道院の風

宇治カルメル会 修士 原 造・著

競争社会の真ただ中、ある夜、闇の中に流れ来るふしぎな調べに足を止めた。それは、初めて耳にした、心に沁みる祈りの声――。

この世に、しかも身近に、自分のためではなく、神と人びとのために隠れて生きる人びとがいることも知った。そしてそこから、自分の人生設計にはななかった、洗礼、修道生活という新たな世界へと導かれてきた。

これは、修道士となり、人生も黄昏のときを迎えた祈りの日々、折りにふれて綴った随想の風。

著者★原 造（はら つくる）

1946年 群馬県桐生市生まれ。

1991年 男子靴足カルメル修道会入会。

1997年 荘厳誓願宣立。

現在に至る。

5月10日発行

女子パウロ会
新刊案内



B6判・128頁・定価 本体 1,100円＋税
ISBN978-4-7896-0794-0 C0016 NDC194

愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳

岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生涯の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

- 第一部 キリスト教の伝統
 - 第1章 福音書(1)
 - 第2章 福音書(2)
 - 第3章 理性対神秘主義
 - 第4章 神秘主義と愛
 - 第5章 東方のキリスト教
 - 第6章 愛を通して生まれる英知
- 第二部 対話
 - 第7章 科学と神秘神学
 - 第8章 修徳主義とアジア
 - 第9章 神秘主義と根源的なエネルギヤ
 - 第10章 英知と(空)
- 第三部 現代の神秘的な旅
 - 第11章 信仰の旅
 - 第12章 浄化の道
 - 第13章 暗夜
 - 第14章 (愛のうちにある)
 - 第15章 花嫁と花知
 - 第16章 一 致
 - 第17章 英知
 - 第18章 活動
 - 第19章 社会活動の神秘主義



ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じる。また、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。

使徒言行録を読む

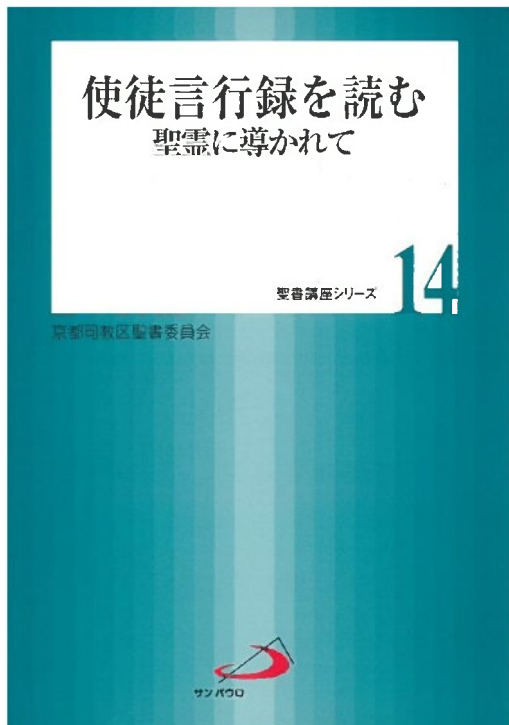
聖霊に導かれて



14

企画・編集 京都司教区聖書委員会

使徒言行録はルカ福音書の後編として書かれ、初代教会においてどのように福音が宣教されていったかをわたしたちに伝えていきます。エルサレムでの初代教会、ペトロの宣教、そしてパウロの宣教と受難について述べていくことを通して、使徒言行録の本当の主人公が聖霊であることが明らかにされていきます。カトリック教会で使徒言行録についての解説がほとんどない中、使徒言行録を読んでいくための必修の講話集。



村上 透磨	はじめに
中川 博道	ペトロの宣教
一場 修	聖霊の働き
西 経一	パウロと律法
北村 善朗	パウロの宣教
鈴木 信一	パウロの受難
澤田 豊成	パウロからわたしたちへ

定価 本体 **1,400** 円＋税
B6 判並製・232 頁・ISBN978-4-8056-3909-2
お求めは聖書委員会またはキリスト教書店で

京都司教区聖書委員会
〒604-8006 京都市中京区河原町通三条上ル カトリック会館7階
TEL: 075-211-3484 FAX: 075-211-3910
E-mail: seisho@kyoto.catholic.jp

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）

上野毛 霊性センター(東京) (2018年10月～2019年3月)

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院(黙想)**

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

2018年 12月24日(月)～25日(火)朝食≪講話なし、夕食なし≫

聖書深読黙想会 大瀬高司 神父

2018年

12月 1日(土)夕食～ 2日(日)午後4時

日帰り黙想会 13時30分～16時 福田正範 神父

私たちの毎日の生活が神のみことばの光によって照らされますように・・・。

2018年 10月26日(金) 11月8日(木) 11月30日(金)

12月13日(木)

2019年 1月11日(金) 1月24日(木) 2月 7日(木)

2月22日(金) 3月 7日(木) 3月22日(金)

*各日、午前から個人静修も可能です。(昼食付)

*申し込みは、3か月前より受付致します。

奉献生活者のための黙想会 福田正範 神父

2018年

12月27日(木)17時～ 1月 5日(土)朝

奉献生活者ならびに一般信徒のための黙想会

2018年

10月10日(水)17時～10月19日(金)朝 福田正範 神父

青年黙想会(男女) 35歳位まで

2019年

2月16日(土)16時～17日(日)16時 カルメル会士

召命黙想会(男女) 40歳位まで

2018年

11月23日(金)16時～25日(日)16時 カルメル会士

特別黙想会 Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

2018年

11月16日(金)20時～18日(日)16時



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>

*

特別黙想会

《わたしは神をみたい》

2018年11月16日（金）20時～18日（日）15時

愛の渇き：

イエスの渇き と わたしの渇き

わたしたちは
たくさんものにかこまれていながら
「飢え、渇いて」います
何が 心の孤独 空洞を
満たしてくれるのでしょうか・・・

この水を飲む者は 誰でもまた渇く。
しかし、わたしが与える水を飲む者は
決して渇かない。

わたしが与える水は その人のうちで
泉となり 永遠の命にいたる水が湧き出る。



主よ、渇くことがないように・・・その水をください ～ヨハネ4・5—15～

- 指 導： 伊 従 信子 （ノートルダム・ド・ヴィ会員）
- 参加費： ￥12000
- 持参品： 「いのりの道を行く：福者マリー=ユージェヌ神父とともに」

聖母の騎士社、聖母文庫、伊従編著

- 場 所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院 （黙想の家）

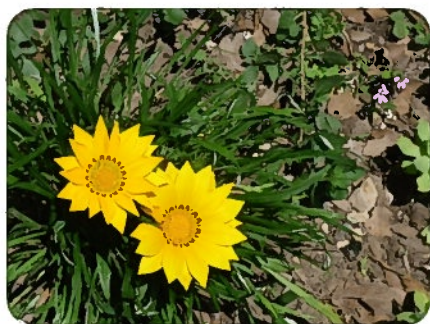
158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

Tel. 03-5706-7355

- お申込み： F A X : 03-3704-1789

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

または、ハガキにてお申込み下さい。



カルメル修道会 一日静修 in 名古屋

—カルメル会士とともに過ごす聖母の土曜日—

日 時 : 2018年 10月27日 (土) 13時から 17時

テ ー マ : ロザリオと聖母

場 所 : カルメル修道会 日比野 (本部) 修道院 (カトリック日比野教会)

プログラム : 13時 ~ 講話・黙想など
16時 ~ ミサ (ミサ中に教会の祈り)、サルヴェ・レジナ (ミサ後)
17時 解散

- ・受付開始は12時半の予定です。(聖堂には12時からお入りいただけます。)
- ・途中、ゆるしの秘跡の時間を設ける予定です。
- ・プログラムに必要な「祈りのリーフレット類」は、こちらで準備いたします。

そ の 他 : 参加のための事前連絡は不要です。当日、直接会場にお越し下さい。
(尚、当日は、1,000円程度のご寄付を宜しくお願いいたします。)

問い合わせ : 郵便、FAX、E-mail の何れかで「カルメル修道会 一日静修係」まで。

郵便 456-0062 名古屋市 熱田区 大宝 4-5-17
FAX 052-681-6445
E-mail hibino@carmel.or.jp

今後のスケジュール

11月24日 (土)

12月8日 (土)

何れも原則13時から17時まで。ホームページでもご案内しています。

<http://www.carmel-monastery.jp>

【注意】 11月の日程が変更となりました。気をつけてお越し下さい。

< 主催 > 男子跣足カルメル修道会 日比野 (本部) 修道院 (大瀬神父・ウイリー神父・古川神父)

宇治カルメル会 2018年度 黙想会案内

【一般のための黙想】・1泊2日（午後5時～午後4時）

11月23日（金）～25日（日）※2泊3日「目覚めていなさい」 中川博道神父

【聖書深読黙想会】（午前10時～午後4時）

変更 ~~12月1日（土）~~ → 12月8日（土） 中川博道神父

【水曜の黙想】（午前10時～午後4時）

10月24日（水） 「ピンチの時は注意深く」 中川博道神父

11月21日（水） 「永遠の命」 九里彰神父

12月19日（水） 私たちの内に宿りたいインマヌエル Sr.ロサ

【カルメル青年の集い】（午前10時～午後4時）

11月23日（金） 中川博道神父

【一般のためのカルメル霊性】（午後5時～午後4時）

10月13日（土）～14日（日） イエスの聖テレジア 中川博道神父

12月8日（土）～9日（日） 十字架の聖ヨハネにおける愛の変容 九里彰神父

【生活の中での霊的同伴】（金曜午後8時〈夕食なし〉～土曜午後4時）

11月2日～3日 九里彰神父

【待降節の黙想】（午後5時～午後4時）

12月1日（土）～2日（日） 「人となられた神」 九里彰神父

【奉献生活者の黙想】（午後5時～午前9時）

11月6日（火）～15日（木） 九里彰神父

12月27日（木）～1月5日（土） 中川博道神父

祭日のミサに参加するために

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30{講話なし、各食事つき}

【クリスマス】

12月24日（日）～12月25日（月）

－その他皆さまが企画なされた

グループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします－

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、
できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と
連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話は、
なるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。
受付が休みの場合は、その場ですぐにお返事できません
ので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様に
お願いいたします。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

宇治聖テレジア修道院（黙想）の 「建築基金」への献金のお願い

主の平和がいつも皆様の上にありますように

宇治の黙想の家は、1962年に建てられ、すでに54年の歳月が経っております。老朽化が進み、いろいろな点で支障をきたしております。そのため、新しく建て直す必要性が出てまいりました。会内で検討を続けてまいりましたが、財源に余裕がなく、新築計画が頓挫しております。

黙想の家は、キリスト者の霊的生活を培うために無くてはならないものです。またカルメル修道会は、霊的指導を会の固有使徒職としております。この意味でも、また日本の教会のためにも、静かに黙想する場所を、信徒の皆様のために確保してゆきたいと願っております。

建築資金の確保のため、少額でも結構ですので、皆様の御協力をいただければ幸いです。お志のある方は、以下の会本部の銀行口座か郵便貯金口座にお振込みください。その際は、誠にお手数ですが、お名前とご住所、振込み日と金額を、郵便かファックスで本部までお知らせくださるようお願い申し上げます。よろしくお願いたします。

三井住友銀行
上前津（カミマエヅ）支店
普通口座：7205805
名義：男子跣足カルメル修道会

郵貯銀行
記号：10040
口座番号：56845391
名義：男子跣足カルメル修道会



男子洗足カルメル修道会本部
〒456-0062 愛知県名古屋市熱田区大宝 4-5-17
Tel: 052-671-1558 Fax: 052-681-6445

金沢黙想案内

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会 聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち1箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 20,360円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 19,130円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号 朝日カルチャーセンター通信講座課

電話 03-3344-2527（直通）

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局 Srローザ
にお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：九里彰神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srローザ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
慈しみ深き会
詩編の会
マリアポリ（フォコラーレ）

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。



カルメル霊性センターニュース

諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

2018年以降の予定

今後の内観は、希望者の日程や会場・修道院の都合を調整して行います。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターにお問い合わせください。

電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

(新住所)

◎〒662-0003 兵庫県西宮市鷺林寺町3-46 シトー会

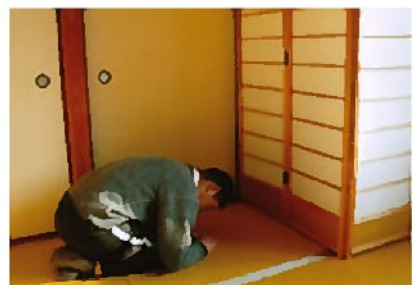
西宮の聖母修道院 司祭館

「心のいほり・内観瞑想センター」 藤原神父

FAX 0798-71-5234 Eメール fujinao1944@nifty.com

<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。



真命山 2018年 — 祈りの集いのご案内

毎月第2木曜日 (10:00～15:00)

指導者 フランコ神父

*は聖ザベリオ宣教会ダニーロ・マルケット神父
個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします(要予約)

- 1月11日 五旬節続唱「聖霊、来たり給へ」
- 2月 8日 聖ボナベンツラの祈り
- 3月 8日 聖アンセルモの祈り
- 4月12日 聖フランシスコ・ザビエルの祈り*
- 5月10日 「サルベ・レジナ」
- 6月14日 聖心の連願
- 7月12日 ロヨラの聖イグナチオの祈り*
- 8月 休み
- 9月13日 幼いイエズスの聖テレジアの祈り*
- 10月11日 アッシジの聖フランシスコ作とされている「祈り」
- 11月 8日 シャールズ・デ・フーコーの祈り*
- 12月13日 「テ・デウム」

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com



講話と祈りの集い

2018年10月13日(土)



すべてが過ぎ去る中で
変わることのない方をわたしは捜し求めます。

午後2時～午後5時30分

担当 伊従 信子

講話・祈り・質問・分かち合い

場 所：ノートルダム・ド・ヴィ（東京・上石神井）

参加費：200円



ノートルダム・ド・ヴィ
〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35
TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254
e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jesuits.or.jp/>

★申込み受付・・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
サダナ I	10/18(木)17:30- 21(日)16:00	Fr植栗 Fr. アレックス	西日本霊性センタ ー (広島市安佐南 区)	西日本霊性センター 受付デスク TEL082-239-0034
入門B	10/28(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 1F (四ツ谷)	来間(くるま) 裕美子※ TEL 090-5325-2518 045-577-0740 sadhana@7123@yahoo. co.jp
入門C	11/18(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 1F (四ツ谷)	同上
サダナ II	11/21(水)17:30- 25(日)16:00	Fr植栗	汚れなきマリア修 道会・町田黙想の 家 (町田市)	同上
フォローア ップ	2019年 1/6(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 1F (四ツ谷)	同上

※不在の場合は、渡辺由子
Tel&Fax : 042-325-7554

◆サダナI (入門A.B.C)

体の営みと想像とを生かして祈りを深め「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

◆サダナII

Iをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

◆フォローアップ・・・サダナIを終えた方。

◆入門C・・・入門Aまたは入門Bを終えた方。



ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1

Tel : 077-579-7580

Fax : 077-579-3804

Eメール : karainorind92@mbe.nifty.com

ホームページ : <http://www.ssnd.jp/>

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2018年 5月 6日(日)～5月14日(月)
- ② 8月14日(火)～8月22日(水)
- ③ 10月7日(日)～10月15日(月)
- ④ 12月27日(木)～2019年1月4日(金)

B. 祈りの体験：週末3日間(金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2018年 2月 2日(金)～2月4日(日)
- ② 2月23日(金)～2月25日(日)
- ③ 3月16日(金)～3月18日(日)
- ④ 6月22日(金)～6月24日(日)
- ⑤ 7月13日(金)～7月15日(日)
- ⑥ 9月21日(金)～9月23日(日)
- ⑦ 11月16日(金)～11月18日(日)

C. 講話 黙想(奉獻生活者のため)

2018年 5月30日(水)～6月7日(木) 雨宮 慧 師(東京教区)

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 氏名(フリガナ) 2) 〒住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方は
ご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日、9月1日～9月7日を除き
ます。)

2018年度 女子青年黙想会

	日時	テーマ	講師
1	5月26日(土)～27日(日)	マルコによる受難	山内十束師(ご受難会)
2	7月7日(土)～8日(日)	マタイによる受難	山内十束師(ご受難会)
3	2019年 2月16日(土)～17日(日)	ルカによる受難	山内十束師(ご受難会)

場所： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

対象： 独身女性青年信徒

費用： 2,500円 (一日参加も可)

申込み・問合せ： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院 シスター桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

ルカによる受難

2019年度 第3回 女子青年黙想会

日時： 2月16日(土) 15:00～

17日(日) 15:30まで

場所： ノートルダム唐崎修道院 (JR京都駅から30分)

指導： 山内 十束 師 (ご受難会)

対象： 独身青年女性信徒

費用： 2,500円

〈申込み・問合せ〉

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会 Sr. 桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

【入門講座】

毎週金曜日 18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本
テーマを取り扱います。無料

10/5 洗礼と堅信—イエスに結ばれて生きる
10/12 教会の成立と意味

—イエスを中心に集う

10/19 人間としてのイエス

—新しい人間像の基礎付け

10/26 御子としてのイエス

—イエスの神との関係

11/2 父と子と聖霊—神の生命に与る

11/9 信仰の決断—支えられて生きる

11/16 ミサ祭儀—神への奉仕と生活の糧

11/30 自己実現と神の意志—生き方の規範

【理解講座】

第1・3火曜日 18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。
信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、
キリスト教の中心的テーマを探求します。無料
2年間のコース。途中参加・部分参加も可

【イエス】

10/2 根本たる愛—律法の完成と克服

10/16 受難による救い—イエスの救済的役割

11/6 死からの命—復活の認識・経験・理解

11/20 キリストはだれか—キリスト理解の発展

【土曜アカデミー】

下記(予定)の土曜日:

9時30分～12時、岐部ホール4階404、
各時代の文章を読んで、思想史一般とキリス
ト教哲学・神学の相互関係を考察します。無料
キリスト教思想史に関心を持っている方。
プログラムの詳細は、別途配布。

参考書:K.リーゼンフーバー著『西洋古代・中世
哲学史』『中世思想史』平凡社ライブラリー
2018年度のテーマ:

近代と現代におけるキリスト教と理性

10/20 キルケゴール:不安と信仰(19世紀)

10/27 フッサール:認識と学問としての哲学

(20世紀)

11/17 シェーラー:人間の人格性と行為(20世紀)

11/24 ブーバー:我・汝の人間関係(20世紀)

【神学読書会】

第2・第4木曜日:18時～20時

上智大学内S.J.ハウス、第5応接室。

『リーゼンフーバー小著作集』から霊性と
神学に関する文章を読んで、話し合います。

テキスト:第Ⅲ巻「信仰と幸い—キリスト教の本質」

随時、どなたでもご自由にご参加ください。

※祝日、8月全体、12/27は休み。

【会社帰りの黙想】

毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時

聖イグナチオ教会マリア中聖堂

信仰・宗派を問わず、どなたでも。

随時の参加・遅刻も可。お気軽に。無料

※祝日。8月全体は休み。

【祈りの集い】

下記の土曜日 13時30分～16時

上智大学内S.J.ハウス、第5応接室

講話、黙想、ミサがあります

10/6、11/10、12/1

【ロザリオの祈り】

上記同日のミサに続いて 16時10分～16時50分

クルトゥルハイム1階右テレジア小聖堂

【夕方のミサ】

下記の月曜日 18時～19時

上智大学内S.J.ハウス隣クルトゥルハイム1階右
テレジア小聖堂

10/29、11/26、12/10

【坐禅会】

第1、第3月曜日：18時～20時

上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋
2回坐り、間に講話。遅刻・不定期の参加も可。

※祝日、8月全体は休み

【黙想会】

上石神井 1泊7000円

10/13(土)10時～10/14(日)14時

申込みの締切りは、初日の10日前

(予定) 関西：9/22(土)13時～9/23(日)15時

宝塚黙想の家 Tel.0797-84-7863 Sr.田中

【クリスマス会】

12/8(土)10時～13時

聖イグナチオ教会岐部ホール4階404

【クリスマスのミサ】

12/23(祝)14時～

上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂

【クリスマスの黙想】

12/25(火)18時50分～20時10分

聖イグナチオ教会マリア中聖堂

—上記の日程に変更がある場合は、
信徒会館1F掲示板でお知らせします。—

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03-3263-4584

クラウス・リーゼンフーバー神父

(上智大学名誉教授)

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学S.J.ハウス

電話 03-3238-5124(直通)

-5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/



祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
—観想の祈りへの道—

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室
12月のみマリア聖堂（ミサあり）

14：00～16：00

【2018年予定】

~~1月18日 第13の歌 終了~~
~~3月22日 第14及び15の歌（1～14） 終了~~
~~5月24日 第14及び15の歌（15～30） 終了~~
~~7月26日 第16の歌 終了~~
~~9月27日 第17の歌 終了~~
11月22日 第18の歌と第19の歌
12月20日 第20及び21の歌（1～19）

【2019年予定】

1月24日 第22の歌
3月21日 第23の歌と第24の歌

*参加費無料（献金歓迎）

*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

九里彰神父（カルメル会司祭）



※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

ミサと晩の祈りをうたう集いへのおさそい

《 聖マリアの奉献の記念日 》

日時：2018年 11月21日 水曜日

13時半 晩の祈りの練習

14時 歌唱ミサ

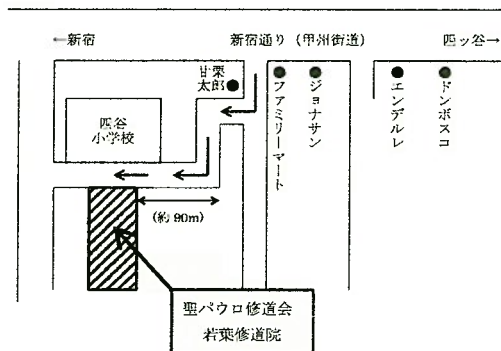
ひきつづき 晩の祈り（歌）（終了予定 16時頃）

司式：中川博道神父（カルメル修道会）

場所：聖パウロ修道会 若葉修道院

東京都新宿区若葉 1-5

JR 中央線/営団地下鉄 丸ノ内線・南北線 「四ツ谷」駅下車



<道順>

四ツ谷駅より

サンパウロ→ドンボスコ→
ファミリーマートを左折
甘栗太郎を右折
道なり後左折→道なり後右折
約90m直進
四谷小学校の正面

主催：「詩編の会」

「マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた。」

（ルカ 2・19）

問合せ・連絡先：TEL/FAX 045-402-5131（藤井）

e-mail: shihennokai@gmail.com

申込書

代表者氏名 _____
 代表者住所 _____
 連絡先 画 _____
 E-Mail _____
 ご紹介者 _____

名前	性別	年齢	宿泊	食事
	男	9日		夕
	・	10日		朝昼夕
	女	11日		朝昼
	男	9日		夕
	・	10日		朝昼夕
	女	11日		朝昼
	男	9日		夕
	・	10日		朝昼夕
	女	11日		朝昼
	男	9日		夕
	・	10日		朝昼夕
	女	11日		朝昼

★性別・宿泊・食事欄は必要箇所には○印をつけてください。

振込金額

参加費	人分	円
他の方への支援献金・会場費等のため		円
振込額		円

申込書は取り取り取らずにFAX かメールでお申し込みください。

参加費

◆宿泊される方

1泊2日 (夕食1・宿泊1・朝食1)
 大人 7,000円
 中・高校生 6,000円
 小学生 5,000円
 未就学児 1,500円

2泊3日 (夕食2・宿泊2・朝食2)

大人 14,000円
 中・高校生 12,000円
 小学生 10,000円
 未就学児 3,000円

◆宿泊されない方

大人のみ 1,000円

※昼食、夕食をご希望の方は予め申込みが必要です。

夕食

大人 1,080円
 小学生 864円
 幼児 540円

参加費に昼食代は含まれていません。昼食は個々に施設内のレストランを利用していただきます。(衛生上持参はできません) 定食や丼ものなど、多彩なメニュー (550円~800円程度) から好きなものを選んでお召し上がりください。

★レストラン利用者数を把握しておくため、申込書の食事欄には記入を忘れずにお願いたします。

申込締切

2018年9月30日(日)

振込口座

三菱東京UFJ銀行 西荻窪駅前支店
 (普通) 0951732 フォコラーレ会 代表者 黒川眞理子
 ※参加費についてのお問い合わせは、フォコラーレまで、……

＜キャンセル料＞

不泊100%、当日100%、前日80%、9日前20%、20日前10%
 食事：当日80%、前日20%



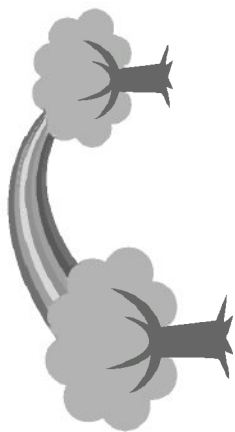
ようこそ マリアの町へ

2018

マリアポリ in 埼玉

～ともに歩もう～

ひとりではなく、つながりのなかで



2018年11月9日(金)～11日(日)

主催：フォコラーレ

お申し込み・お問い合わせ先

フォコラーレ

〒166-0001

東京都杉並区阿佐谷北2-31-12

Tel :03-3330-5619 Fax: 03-5356-6101

E-mail tokyofocfem@gmail.com

プログラム

11月9日(金)

- 15:00~ 受付【大会議室】
- 16:00~17:00 出会いのひととき
- 18:00~19:00 夕食【宿泊棟レストラン】
- 19:30~20:30 ようこそマリアポリへ【大会議室】

11月10日(土)

- 6:00~ 散歩(自由参加)
- 7:00~ 8:30 朝食【宿泊棟レストラン】
- 9:30~10:40 プログラム①【大会議室】

朝のつどい

※子どもたちの別プログラムがあります

- 11:00~12:00 祈りの時間(ミサ)
- 12:00~13:30 昼食【宿泊棟レストラン】
- 14:00~17:00 プログラム②【大会議室】
- 18:00~19:00 夕食【宿泊棟レストラン】
- 19:30~20:30 プログラム③【大会議室】

夜のつどい

49 11月11日(日)

- 7:00~ 8:30 朝食【宿泊棟レストラン】
- 9:00~10:30 プログラム④【大会議室】
- 朝のつどい
- 11:00~12:00 祈りの時間(ミサ)【大会議室】
- 12:00~13:30 昼食【宿泊棟レストラン】
- 14:00~16:00 プログラム⑤【大会議室】

- ※ 大会議室は研修棟にございます。お荷物は宿泊棟の玄関のコインロッカーをご利用いただけます。
- ※ プログラムは事情により変更することがあります。

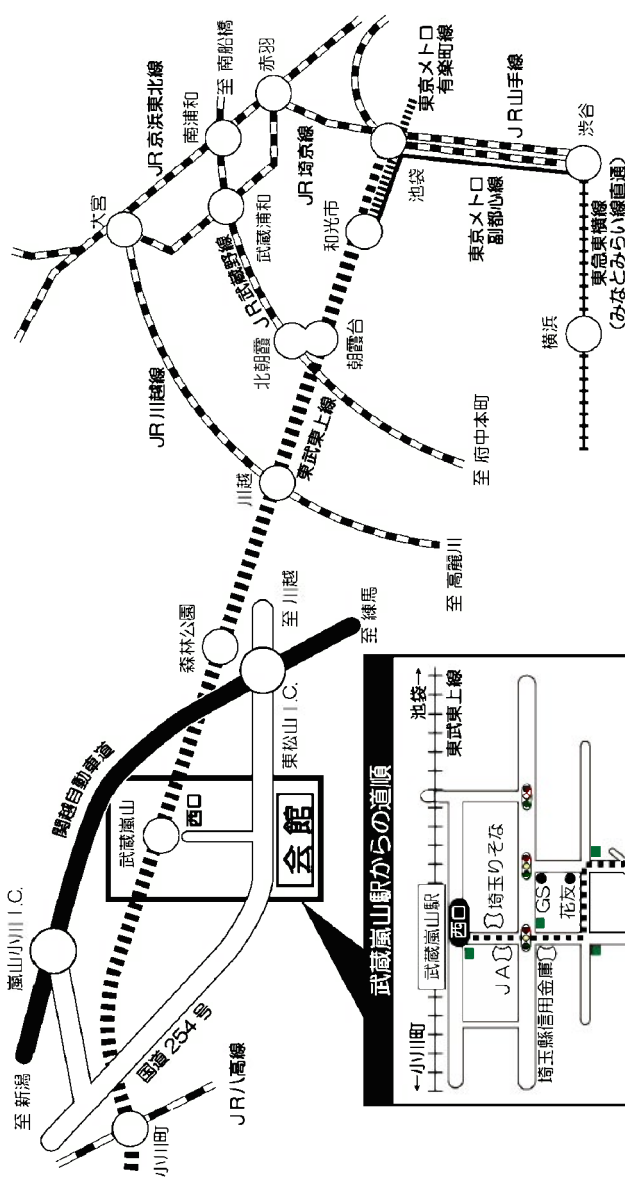


ばしよ：国立女性教育会館

埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728

Tel. 0493-62-6711

<https://www.nwec-bs.jp/>



交通案内

- 池袋駅から東武東上線 武蔵嵐山駅まで 急行で約65分 駅からは徒歩で約15分です。
- 川越駅から東武東上線 武蔵嵐山駅まで 急行で約31分です。
- ★羽田空港から川越駅まではリムジンバスで約100分です。
- 横浜駅から東急東横線～東武東上線直通のドライナーに乗り途中森林公園駅でのりかえて武蔵嵐山駅まで約2時間です。
- お車で 関越自動車道を東松山 IC 降りて 国道254号線を通って約15分です。

※ 到着しましたら、プログラム場所へ直接お越しください。

☆☆施設内配置図☆☆

↑武蔵嵐山駅



四季の移ろいを楽しめる緑豊かな場所です。

『靈性センターニュース』

* 郵送お申込みのご案内 *

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号~12月号（但し8月号は休刊）となり、
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座（新設）
へお振り込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
《変わりました》 reisei@carmel-monastery.jp

「靈性センターへの献金」のお願い（上とは別）

「靈性センターニュース」は、7月より、宇治靈性センター事務局で編集、
印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担し
ております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局
なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



編集後記

先月9月4日、京都を直撃した台風の猛威は強烈であった。午前中はおだやかで、青空も見えたが、午後二時頃から雨風は激しくなり、修道院の大木がゆらゆらゆれ始めた。やがて葉っぱや枝やいろいろなもの（例えば、駐車場の古くなった屋根など）がちぎれ飛び、ついには雨風が白い渦を巻き、まったく何も見えなくなるほどであった。

私の2階の修室の前の桜の木も、左右に大きく揺れ、枝が窓に当たり、ガラスが割れないかと心配した（アルミサッシのすき間からは雨が吹き込んでいた）。と、一瞬の内に木が見えなくなった。窓辺にかけよると、何と根っこからひっくり返っていた。五時半頃には小降りになったので、外に出ると惨澹たる有様であった。沢山の木が倒れたり、途中で折れたりしており、道路も多くの倒木がバリケードを築き、通行不能になっていた。

黙想の家の方では、ヒマラヤ杉の大木が三本倒れ、その一本の根っこが水道管を破壊、水が噴出していた。不思議なことに、三本とも建物とはまったく逆方向に倒れていた。またヨゼフ像の手前と後ろに大木がはさむようにして倒れていた。これも方向が少しずれば、像は壊れていたことであろう。

「ここは何かある」と、翌日、翌々日と片づけにきてくださった業者の人たちが言っていた。パワースポットとして売り出せるかもしれない。

(P. 九里)

男子跣足カルメル修道会のホームページ

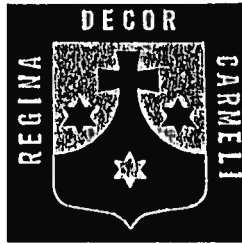
<http://www.carmel-monastery.jp>

Google: 「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています



『靈性センターニュース』お持ち帰りの方へ
一冊 100 円程度の献金をお願い致します



製本／発送のご協力お願い

「靈性センターニュース」の製本/発送を、2017年7月号より宇治修道院で行う事になりました。発送作業は梱包・宛名ラベル貼りと確認チェック等です。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加も大歓迎です。

次回の製本/発送日 **10月26日(金) 午後10時頃から**
宇治修道院信徒会館

※ご協力いただける方は、製本/発送日をご確認の上、お越しく下さい。

靈性センター事務局 ☎0774-32-7456